

エステーリンク

工場用空気清浄機に新型

高さ抑えたボックス型

精密板金加工やバリ取り機製造・販売のエステーリンク（本社＝新潟県燕市、齋藤隆範社長）は、工場用の大型空気清浄機に新たな機種を追加する。新機種は既存のタワー型よりも全高を低く抑えたボックス型。ラインアップを拡充し幅広いユーザーの要望に応える狙い。12日に名古屋で開催する「工場設備・備品展」で同製品の展示を予定している。

工場用大型空気清浄機のボックス型



同社は2021年4月から特定化学物質障害書予防規則の規制対象となった「溶接ヒューム」への対策として、22年にタワー型の工場用大型空気清浄機「BPPCA-100」を発売した。しかし、タ

工場設備・備品展でPR

ワー型は全高が3・5mを超え、顧客からは背の低いモデルを要望する声があったという。製品ラインアップを増やして幅広いユーザーのニーズに対応するため、高さを2・7mに抑えたボックス型の「BPPCH-100」を発売する。基本的な性能はタワー型と同じ。1台で工場内（目安9000立

工場内の空気に含まれる粉じん量を計測し、自動で運転を開始して空気清浄を行う。特長はダクト工事なしで設置が可能なことだ。工事が必要なタイプと比較すると、30～40%程イニシャルコストを削減できる（同社調べ）。設置工事は半日程度で済むため生産への影響も抑えることができる。換気型ではなく室内循環型の空気清浄機であるため、工場

外に汚染物質を出さず、周辺への環境負荷がない。脱炭素にも寄与する。国が推奨する溶接工場での換気目安は1時間15～20回とされる。一方で換気を行うことで工場内の冷暖房効率が悪化し、多くの電力を消費することに。1回分の換気を大型空気清浄機で置き換えるだけでも電力消費が抑えられる。同社の試算では、エアコン

を利用する6000立法の工場の場合、1年間で約3・8トンのCO₂排出量削減につながるという。今後は鉄骨加工や建機メーカー、製缶板金など、溶接を行う分野への拡販を進めたい。ボックス型を追加したことで工場の高さを問わず、より幅広いユーザーへの提案が可能となった（同社）としている。